

初めて日本に渡ったアフリカ人はモザンビーク人

在モザンビーク日本国大使館

(1) 初めて日本に渡ったアフリカ人はモザンビーク人

1581年、イタリア人宣教師ヴァリニャーノが織田信長に謁見した際に従者として同行していた黒人を信長が召し抱えたいと希望したので献上しました。

その黒人の従者はモザンビーク出身で、信長は「弥助」と名付けて武士の身分を与え家臣にしたと伝えられています*。

本能寺の変では、弥助も本能寺に宿泊しており、明智軍に捕縛されるも日本人ではないとして一命をとりとめたと言われています。

その後の消息は不明ですが、一説によればモザンビークに戻ったとの説もあります。

例えば、弥助の出身地であるモザンビーク島では刀を「カタナ」と呼ぶことから、もしかしたら弥助は無事に故郷に戻り、そこで日本語を伝えたのかも知れません。

2019年5月、弥助の物語が、チャドウィック・ボーズマン氏主演で、米国で映画化されることになった旨、報じられています。

*弥助に関しては諸説あり、在モザンビーク日本大使館として特定の見解を示すものではございません。

(2) 初めて日本人が行ったアフリカの国はモザンビーク

九州のキリシタン大名の名代として4人の少年を中心とした天正遣欧使節団は、1582年ヨーロッパに向かいました。

1586年、同使節団は帰路、乗り継ぎ船を待つためにモザンビーク島に寄港し、6か月を過ごしました。

彼らがアフリカの地に降り立った最初の日本人とされています。